

## <Press Release>

取扱注意  
ラジオ・テレビ・インターネット・新聞  
3月31日(土) 情報解禁



公益財団法人愛知県文化振興事業団

2018年3月30日(金)  
愛知県芸術劇場  
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)  
広報・マーケティンググループ  
☎ 052-955-5506

報道各位

速報

# 2017年度愛知県芸術劇場自主事業 「三輪真弘+前田真二郎 モノログ・オペラ『新しい時代』」が 第17回(2017年度)「佐治敬三賞」を受賞しました。



愛知公演(2017年12月7日)フォトセッション、愛知県芸術劇場小ホールにて

平素より愛知県芸術劇場の活動につきまして、ご理解・ご支援賜りありがとうございます。  
さて、見出しのとおりプレスリリースを送付いたします。  
ご多忙中恐縮ですが、ご一読の上、ご取材等いただければ幸いです。

### お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

広報・マーケティンググループ(武石) 企画制作グループ(藤井)

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2 ☎ 052-955-5506 Fax 052-971-5541

Mail: [mkt@aaf.or.jp](mailto:mkt@aaf.or.jp)

<http://www.aac.pref.aichi.jp/>



## 当劇場の自主事業、2回目の佐治敬三賞受賞

公益財団法人サントリー芸術財団が、国内で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈る「佐治敬三賞」。この第17回(2017年度)受賞公演に、三輪眞弘+前田真二郎 モノログ・オペラ『新しい時代』が選出されました。当劇場の自主事業としては、第15回(2015年度)の「トム・ジョンソン《4音オペラ》日本語版世界初演」以来2回目の受賞作品です。

本作は2000年に情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授の三輪眞弘と前田真二郎によって作られた独白形式のオペラです。初演から17年経った今も、色褪せることなく、デジタル社会が自明のもととなった現代に向けて、テクノロジーと社会の在り方について問いかけ続けています。

作曲・脚本・音楽監督を務めた三輪は、90年代に起った事件等から着想を得ています。それをもとに、14歳の引き籠りの少年がインターネット上で発見した宗教団体「新しい時代」の神に救済を求め、最期の儀式を行う瞬間を描きました。一方、演出・映像を担当した前田は、作品に対して、音響・映像・照明が呼応する装置を駆使し、テクノロジーの在り方だけでなく、人の生き方にも問いかけるライブ感を演出しました。

2017年12月8日(金)、9日(土)に当劇場(愛知)、16日(土)あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール(大阪)で上演され、カルチャーニュースサイトをはじめ地域の文化情報誌に掲載されるなど、大きな反響を得ました。

---

## 受賞に寄せて

作曲・脚本・音楽監督：三輪眞弘

17年の時を隔ててこのオペラを再演しようという伊東信宏先生(大阪大学文学研究科教授)の提案があったこと、それを受けてザ・フェニックスホールはもとより、当時の初演に関わった誰もが今回の再演に賛同してくれたこと、そして彼らの全面的な協力によって当時の技術システムを刷新して、自分が生きている間にこの作品を現代に再度「復刻」できたことをぼくは奇跡のように感じている。さらに、そのような公演を佐治敬三賞が見出してくれたことに驚くと同時に、またそれを誇りに思う。

もちろん、17年経っても古びていなかった「この作品が持つ力」をぼくは信じていたが、何より公演の成功は、愛知県芸術劇場が、ホールという空間だけでなく十分なりハーサルの時間を提供し、芸術に対する情熱と能力を兼ね備えた劇場の技術チームを配置して、ぼくたちを全面的にサポートしてくれたおかげだった。当然かもしれないが、今回の賞は「アーティストに」ではなく、ザ・フェニックスホールと愛知県芸術劇場の「文化施設の持つ底力に」与えられたものだと感じている。

演出・映像：前田真二郎

この度、17年ぶりの再演が大きな賞を授かったことは、映像作家の私にとって舞台芸術の尊さを再考する機会となりました。人が再演可能であるその形式には、時を越えた劇場でさらなる創造を引き出す可能性が潜在しているのだと実感しました。光栄な賞を関係者とともに嬉しく受けとめています。



<贈賞理由> (公益財団法人サントリー芸術財団ウェブサイトより 抜粋) <https://www.suntory.co.jp/sfa/>

世紀のちょうど境目 2000 年に初演されて衝撃を与えた音楽劇の、17 年ぶりの再演である。オペラといっても既成の諸形式の踏襲は一切ない。コンピューター・プログラムで制御され、フォルマント音響合成(佐近田展康による)を駆使した三輪眞弘の音楽が、前田真二郎の映像と一体になり、メディアアートの総合演劇を作り出す。コンピューター・ネットワークの中に神を見出し、光となってそこを永遠に漂う肉体なき旋律情報となることを願う主人公の少年の自死の物語は、既に初演時に衝撃を与え、来るべき 21 世紀のニューエイジともいべき世代の、ほとんど不気味とすら言えるほどに純粹無垢なヴァーチャルの感性の到来を予告していた。

しかし主役のソプラノに必要な極めて特異なキャラクターと声(透明で性ニュートラルな非身体性ともいべきもの)、そして複雑なコンピューター・システムの故に、再演を望む多くの声にもかかわらず、その機会はこれまでなかった。だがこの 17 年の間に、本作品が描き出した — 初演当時は多くの人にとって現実感がなかったであろう — ヴァーチャル世界はいつのまにか世界を包み込む現実そのものとなり、その前で私たちはただ呆然としている。電気テクノロジーが現実化する超(非)現実という逆説。科学技術による合理化の果てに出現する情報ネットワークの魔界。電脳世界へと人間の主体も身体も解消され、「わたし」と「あなた」といった人称性はもはやなく(この音楽劇がモノローグ・オペラの形をとっているのは必然である)、従って何の苦悩も対立も生じないこのすべすべした滑らかな調和の不気味。この上演至難な作品を「いま」の時点でもう一度再演した意義は、まさにここにある。

初演時にも主役を歌ったさかいいいしうの、まるで遠い宇宙から送られてくる電波メッセージのように微かで透明な声は、17 年の間隔をまったく感じさせず、生身の奏者によって演奏されつつ、コンピューター・システムによって制御される音楽は、完璧に映像プロセスとフィットしていた。芸術とは単に美的なものではなく、時代相の最も深いところにある患部の診断にほかならないということを、これだけ鮮烈に思い出させてくれる作品は滅多にない。以上の理由で「三輪眞弘+前田真二郎 モノローグ・オペラ『新しい時代』」に第 17 回佐治敬三賞を授与する。

## 佐治敬三賞とは

故・佐治敬三(元サントリー株式会社社長、元サントリー音楽財団理事長)の功績を記念して、2001 年度(平成 13 年度)から「佐治敬三賞」を創設いたしました。

この「佐治敬三賞」は佐治の音楽への深い愛情と理解およびチャレンジ精神、パイオニア精神を承継し、新しい世紀のわが国における音楽公演活動の一層の振興を願って、氏の名を冠した新しい賞として制定します。この賞は、毎年わが国で実施された音楽を主体とする公演の中から、チャレンジ精神に満ちた企画でかつ公演成果の水準の高いすぐれた公演に贈られるもので、応募のあったものの中から選定されます。賞金は 200 万円。

(公益財団法人サントリー芸術財団ウェブサイトより 抜粋)

## 過去の受賞公演一覧

第16回 (2016年度)	「伶楽舎第十三回雅楽演奏会～武満徹『秋庭歌一具』」
第15回 (2015年度)	「トム・ジョンソン《4音オペラ》日本語版世界初演」 「DUOうたほざりサイタル2015ー春夏秋冬ー」
第14回 (2014年度)	「鈴木俊哉 リコーダー リサイタル《細川俊夫ポートレート》」 「ニンフェール第10回公演 東洋と西洋の絃」
第13回 (2013年度)	「東京現音計画 #01～イタリア特集 I:コンポーザーズセレクション1・杉山洋一」 「東方綺譚 “Nouvelles Orientales de Marguerite Yourcenar”」
第12回 (2012年度)	「 kuniko plays reich in Kyoto 」 「 Sep.5 2012 Thanks to John Cage 」
第11回 (2011年度)	「林千恵子メゾソプラノ・リサイタル『アペルギス&グロボカール』」 「児玉桃ピアノ・ファンタジーVol. 1」
第10回 (2010年度)	「井上郷子(さとこ)ピアノリサイタル#19 モートン・フェルドマン作品集」 「東京シンフォニエッタ第28回定期演奏会 湯浅譲二特集」
第9回 (2009年度)	「クロノイプロトイ第5回作品展～弦楽四重奏の可能性」
第8回 (2008年度)	実験室vol.2『偽のアルレッキーノ／カンパネッロ』
第7回 (2007年度)	フランス現代音楽からの潮流～井上麻子×藤井快哉(ふじいよしき)DUO
第6回 (2006年度)	武生(たけふ)国際音楽祭2006
第5回 (2005年度)	next mushroom promotion vol.8 『細川俊夫～50年のランドスケープ』
第4回 (2004年度)	三井の晩鐘
第3回 (2003年度)	現代の音楽展2003 ー 室内オーケストラの領域 III
第2回 (2002年度)	アンサンブル・ノマド 2002年度定期演奏会 #1
第1回 (2001年度)	篠崎史子 ハープの個展 VIII ～新たな領域を求めて～ Just Composed 2001 in Yokohama ～現代作曲家シリーズ～大野和士が描く新世紀の音楽絵巻